

表-7.1.2(2) 重要な動物種の保全対策手法の検討結果(その1)

No.	種名および亜種名	確認箇所		生息環境のタイプ	保全対策および捕獲方法			現況および移動先の状況		移動先の生物群集の攪乱などの影響	
		障害灯の改変部	空港施設予定地		保全対策の手法	捕獲移動を行う際の捕獲手法	捕獲の難易度	改変区域内の確認個体数	移動先での定着状況予測及び配慮事項		
1	セマルハコガメ	●	●	樹林性/地表	土工事着手前に捕獲による移動か、自力移動を促す。	林内や林縁農道の日中踏査による目撃個体の直接捕獲	B	地表歩行性大型種で発見容易だが、当該地域は生息密度が低く捕獲作業時の踏査ルートにも出現しないことも想定。	● 空港施設予定地で確認された個体数は通算で1個体である。 ● 航空障害灯予定地で確認された個体数は通算で7個体である。	大型の地表徘徊者であり活動範囲の広いことが想定されるが、確認例の多い航空障害灯予定地は改変面積が少なく直近樹林はほとんどが維持されることから移動個体の生存は維持されると考えられる。空港施設予定地からの捕獲個体は近隣の同様環境へ放逐されるが、確認数が多い航空障害灯予定地とは樹林地の連続性があることから移動法は有効と考えられる。	● 空港施設予定地の個体については、近接するゴルフ場北西部の残地部へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。 ● 航空障害灯予定地の個体については、工事の影響が及ばない直近へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。
2	キシノウエトカゲ	●	●	樹林・草地・耕作地/地表(穴を含む)	土工事着手前に極力捕獲するが、捕獲は困難な種であるため、土工事着手前の伐採工の際に、施工中心域から周辺部へと伐採を進めることにより、自力移動を促す。	林内や草地・耕作地の日中踏査による直接捕獲。敏捷なため地中巣穴の確認による掘りとり捕獲	C	生息密度が高くなく、敏捷で巣穴に隠れると発見は難しい。	● 空港施設予定地で確認された個体数は通算で3個体である。 ● 航空障害灯予定地で確認された個体数は通算で1個体である。	人手の加わる耕作地にも多く生息することから、移動個体の長期的な生存率は高いと考えられる。	● 空港施設予定地の個体については、極力捕獲するとともに、捕獲は困難な種であるため、土工事着手前の伐採工の際に、施工中心域から周辺部へと伐採を進めることにより、近接するゴルフ場残地部へ自力移動を促すこととしており、攪乱のおそれはないと考えられる。 ● 航空障害灯予定地の個体については、工事の影響が及ばない直近へ自力移動を促すこととしており、攪乱のおそれはないと考えられる。
3	サキシマアオヘビ	●	●	樹林性/地表(穴を含む)	土工事着手前に捕獲による移動か、自力移動を促す。	夜間の林内や農道踏査による目撃個体の直接捕獲	C	生息密度が低く、開けた土地に出現することは少ない。また発見は通常夜間に限られる。	● 空港施設予定地で確認された個体数は通算で4個体である。 ● 航空障害灯予定地で確認された個体数は通算で1個体である。	大型の地表徘徊者であるが、活動範囲は不明である(穴は狭いことが知られる)。個体数が少なく生態知見が乏しい種であるが、空港施設予定地の小面積の樹林に確認されることから、同様な環境に移動を行う手法は有効と考えられる。航空障害灯予定地は改変面積が少なく直近樹林はほとんどが維持されることから移動個体の生存は維持されると考えられる。	● 空港施設予定地の個体については、近接するゴルフ場北西部の残地部へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。 ● 航空障害灯予定地の個体については、工事の影響が及ばない直近へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。
4	ヤエヤマクビナガハンミョウ	●		樹林性/樹上(成虫のみ。幼虫は不明)	土工事着手前に捕獲により移動させる。	春季(5月中旬-6月中旬)に実施必要。林縁や尾根部のやや開けた樹上(1-7m)のクワイピング法捕獲	B	個体数は少ないものの春季現地調査では発見がやや容易であった。	● 航空障害灯予定地で確認された個体数は通算で2個体である。	確認された航空障害灯予定地は樹林の多くが現状のまま維持されることから移動個体の長期的な生存率は高いと考えられる。	● 航空障害灯予定地の個体については、工事の影響が及ばない直近へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。
5	コガタノゲンゴロウ		●	池沼・湿地性/水中	土工事着手前に捕獲により移動させる。	池沼・湿地の岸辺の草間(水中)のタモ網捕獲	A	生息する微環境条件を探索することで発見は容易である。	● 空港施設予定地で確認された個体数は、通算で11個体である。	池沼湿地環境は出現消失を繰り返す環境であることや大型ゲンゴロウ類は移動能力が高いとされること、改変地外の大里地区周辺には良好な水田、池沼・湿地環境が多く残ることから、移動個体の長期的な生存率は高いと考えられる。	● 空港施設予定地の個体については捕獲した個体を新規に創出するビオトープへ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。
6	ヤエヤマミツギリソウムシ	●		樹林性/樹木(樹木状態の詳細不明)	土工事着手前に捕獲により移動させる。	春季(5月中旬-6月中旬)に実施必要。林内下草や低木のクワイピング法、および朽木の目撃法捕獲	C	環境省絶滅危惧I類の減少著しい種で生息地でも発見は容易でない。また生態は不詳。	● 航空障害灯予定地で確認された個体数は通算で1個体である。	確認された航空障害灯予定地のカタフタ山は樹林の多くが現状のまま維持されることから移動個体の長期的な生存率は高いと考えられる。	● 航空障害灯予定地の個体については、工事の影響が及ばない直近へ移動させることとしており、攪乱のおそれはないと考えられる。